明治四十一年八月廿五日發行
毎月一回二十五日發行

婦人新報

大會號

日本基督教婦人矯風會

185

婦人新報大會號

目次

AUGUST 1908

WOMAN'S HERALD.

CONTENTS

FUJIN SHIMPO OFFICE.

No. 6, Horaicho, Hongo, Tokyo.

70sen per Annum. Single Copy 6sen.

社告

◎婦人新報定價（郵税共）

一部（前金）	金六錢
六部（前金）	金三十五錢
十二部（前金）	金七十錢

（郵券代用一割増）

◎廣告料

一行（五號活字）	金十錢

明治四十一年八月廿四日印刷
明治四十一年八月廿五日發行

發行兼印刷人　本多テイ
編輯人　小崎チヨ

發行所　婦人新報社
東京府豐多摩郡澁谷村元青山南町七丁目一番地

編輯及事務所　本郷駒込蓬萊町六番地

婦人新報大會號

（明治四十一年八月廿五日）

論説

「過去一ヶ年」大要（會頭演說）

過去一ヶ年は私か爲には成功の年に非ずして失敗の年なりき從て玆に懺悔を告白するも遺憾の極みなれ炎暑にも不拘昨年諸代員東京に集り一ッ心を以て相提携して事をなさんと袂を別ちし以後都をさり東海の道程を神戸に赴かんと志しゝに汽車の不通は島田驛にて下車するの止なきに至らしめぬ此處にて旅客の荷物運搬に從事する下層社會の婦人により我が同胞婦女の間の風俗の矯正と教育の一層必要なる事をまつ認めぬ神戸大阪各地にては歡待至らざるなし然して大阪より堺及濱寺に巡視を求められければまつ堺を指して向ひぬ非常なる盛會に加へて炎暑燒くか如き時なりしに演說中は水を用ひて咽喉を濕ほすに代へて只管鹽を用ひし不思議自ら身に恙ありしを見出しぬ仍て石神氏の診察を乞ひしに豈斗らん原因は遙かに米國漫遊中加州に於て甚だしく食慾減退せしまゝに唐黍を用ひしに起りたりとて、加ふるに病全く癒えさるに咽喉病併發しけれは高田耕安氏に診察を求め暫時轉地の身となり茅ケ崎に起臥する事二ヶ月只管海岸の松林に自らくま手を執つて運動を試みながら過去を省み將來を思ひめくらしぬかく身は病多くして活動なし能はざりしが中にも猶ほ社會は病めるものを待たずして旭川遊廓事件の起るあり磐城國平町の遊廓設置は我が同志の反對運動を訴ふるありさては馬匹改良を名として白晝公然賭博の行はるゝあり悖德日を追ふて社會を腐蝕せんとするに當り關西に於ては醜業を事とする人の代議員に選擧するあり直接に或は簡接に百方力を竭して之か反對を試みぬ偖て將來に横たはる事業には米國艦隊歡迎あり之に對しては米國宣教師方の憂慮あり地方矯風會員の勸告注意等もあれど調査の結果彼我の有力なる當

路者に交渉して今日迄かゝる事柄に關して行はれたる醜風の豫防策を講せん決心なりとの事なれは希くは諸姉心を安んぜられよ、來らんとする一年に於ては身は聖書を友として積極的矯風の人とならん覺悟なりされば我身を見賜はゝ矯風會と思ひ玉はれよ各々元氣に充ちて大小の事業を輕視せす重大視せすして孜々として務められよ、常に喜ひ絶えす祈り凡ての事感謝しつゝ進まはや猶ほ本會に於てはあらゆる諸姉の困難疑問成功を携へ來られよ幸にストラウト孃のいますありよく研究しよく學ひ來年度の成功を期せらるべし

須らく現在を善用せよ

祝辭三四

大阪市長　山下重威君

社會の風紀は日を追ふて頽廢に傾き青年子女を非難するの聲は都鄙を通して益々囂からんとす而して之か救濟の方法は多くの識者によりて講せらるゝも効果の甚だ舉らざるは洵に遺憾の極なりといふへし是豈實行の言論に伴はさるに由るなしとせんや獨り日本基督教婦人矯風會は夙に此に見る所あり社會救濟の事に從ひてより茲に拾有六年拮据黽勉終始其節を改めす實踐躬行の第一着手として禁酒禁煙の制を斷行し其他家庭の肅正幼兒の保育風俗の改良及各種の慈善救濟の事業に至るまで著々其の實を擧け其功を奏しつゝあることとは世人の均しく認むる所にして實に歎賞に堪へさるなり將來猶一層奮發駸々乎として其歩を進むるに於ては世道人心を補益し社會に貢獻するの功績たる蓋し測り知るへからさるに至らん茲に本日の大會に臨み謹みて會員諸氏の健康を祝し併せて本會の益々隆盛ならんことを祈る

明治四十一年七月二十一日

大坂朝日新聞社長　村山龍平君

明治四十一年七月廿一日日本基督教婦人矯風會第十六回大會を我大坂市に開き全國各支部の代表者來會數十名に及ぶ盛んなりと謂ふべし時正に盛夏の候に方り都

人士多く暑を山巓水涯に避くるの際殊に婦人の身を以てして社會矯風事業の爲に熱誠此に至れるもの人をして自から感激せしむるものあり思ふに斯の如き公益的事業は至誠を以てするにあらざれば其の効果を收め難く本會が多年諸方面に活動して其の成績頗る顯著なるものある畢竟役員以下會員諸姉の宗教的信仰に由らずんばあらず我國の社會は今後も尚諸姉の熱心なる經營に俟つべきもの甚だ多し冀くば會務一層の隆盛を加へ更に大いに其の事業の發展せんことを聊か蕪辭を述べて祝詞に代ふ

長田時行君

聖哲の言に新聞は社會の反響、國民の反射なりと云ふ誠なる哉、各時代各地の有樣を知らんとならばまづ其地の新聞を見て之を知り得べく、今時發刊せらるゝ數百の新聞が如何なる事を報導するかと問へば紳士淑女の見るに堪えざる事を羅列して恬として耻づるなし日本が過去四十年に於ける進歩は實に著るしきものにして文武共に第一等國の地位を占めしむるに至りたるが如けれど衰へる此國の風教を見て心ある者は爲に涙なき能はざるは眞に悲むべきの極みなれ、されば此衰へたる風紀を新にせんにわ如何なる事をなすべきか第一は婦人矯風會の標榜する家庭之なり、此會は家庭の神聖を保ち一夫一婦を以て主義とするものにして此が爲に力を盡せし事幾何なるを知らず第二は教育の完備を期し善良なる青年子女を養成する事、第三は社會全躰の空氣を清め社會の制裁を嚴にして一旦罪を犯したるもの丶再び起つ事能はざる事なり古へは人より金を借る時には「若し期日に至り返濟叶はずは人中にて御笑ひ被下べく候」とのみ證人に認めたるに止まりて毫も誤るなかりしを今の時代に於ては如何なる手段方法も不義不正の輩に勝つ事能はざるものとなれり德の廢れたるかくの如し第四は基督教を以て多くの人を慰むると共に罪人を救濟して之を導く處の我らの本領主張なり、貴會は此らを主張する者なり會員の中教育者は

敎育に就て最良方法を講ぜられよ傳導者は直接に神の福音を宣へよ家庭にあるものは之を淸めよ今日は議論の世にあらず諸姉の主義の世人已に之を知れり基督敎の主義をもしれり今日諸姉の議せらるゝ處よろしく空論ならずして實行を重んぜらよ實行して此が爲に全身全力を盡されよ我ら敎會員は諸姉の驥尾に從つて一臂の力を盡さむ

大坂毎日新聞社長　本山君

貴會の主義を知り非常の敬意を有するが故に今日來會せり

大坂はもと商工業の地なれば此らの事は發達し居れども精神修養上に聊か欠點なき能はず茲に貴會大會の開かるゝ必ずや多大なる影響を精神修養上に及ぼすべし諸姉よ宜く諒察せられ力をそへられたしホーム事業の如き遠大なる事を期せずして卑近の事柄に實行の誠を罩めたる實に喜ばしき事どもなり一層奮て實行上に盡され度し

石橋爲之助君

不肖の身を以て這般は法律を作るものとせらる所謂法律やなり、されど此世を法律萬能主義をもつて法律一遍に治めんとするは實に能はざる事の甚だしきもの今例せば今後刑法の發布と共に不良少年を監獄に入るゝ事は廢せられて感化院は此が爲めに設けられんとして各府縣共に此令に則る事となりたり若し此設備も調ひ萬般の物整ふとも校長其人を得ざらんには如何にあるべきこれ即ち法律はよくとも之を活用する事不能と同一の論なり、前年未丁年禁煙の令も發布せられたるも諸姉の知らるゝ如く其實行難きに非ずや、我が立脚地より云はゞ法律は萬能なりとするも前に述べたる如く法律のみにては立つ事能はずたゞ宗敎的精神より湧き出づる赤誠を要す矯風會は幸に進歩せんとするの現象を示しつゝあり眞に喜ばしき事といひつべし希くは矯風の主義と法律と相俟て社會の完全を期せん事を

答辭　　　會頭　矢島楫子

今日知事市長閣下其他師團長　新聞社教會の諸氏より鄭重なる歡迎祝辭を忝ふせし事は當會及各地代表者に於ても其喜び言ふばかりなし不肖過る年米國に開かれたる萬國婦人矯風會大會に列してボストンにありし折一日大統領官舍ホワイトハウスに招かれて各國代員其他懇ろなる饗應を受け慰勞せられし時に大統領親ら此會に趣味を持たれ居るを見て聊か羨ましき感あり我が國にてもかく社會と共に事を計らん日の何時のよにか望むべきと心もとなかりしに今日は計らずも諸方面の方々の我儕に力を添へらるゝ事の嬉しさに謹て諸氏に答へ奉る

第十六回大會記録

（會場大坂東區玉造ウヰルミナ女學校）

明治四十一年七月二十一日午前九時矢島本部會頭司會の下に讃美五十一番を以て祈禱會開會部長の祈禱了て心を一にするの意を以て使徒行傳二章一、二、三、節を朗讀せられ熱心なる諸姉の祈あり、各々靈に滿ち一同の主の祈にて祈禱會は閉ぢられぬ

大坂支部會員樫内姉日向に靜養中手飼の蠶より得られし糸にてリボンを作り出席に代へ送られし旨會頭より報告ありたり

讃美二百五十一番を以て第二次會開會、例年の慣習により詩篇百四十六篇を朗讀上代姉の祈禱に次で米國派出員ストラウト孃の紹介及同孃の答辭ありたり本部役員課長部長支部長の點呼に次て本部常置員會四十年度の報告あり可決せらる

次に大會執行委員會頭の指名をもつて定めらる次の如し

委員長　林　歌子　會場書記　清水　朝子　竹中　繁子

會場會計掛　渡邊　常子　伊藤しな子　横倉　秀子

代員證明書調査委員　横倉　秀子　山本　琴子　鈴木　元子

接待掛員　久保田姉　佐立すゞ子　安藤姉
鎌原つま子　名和りつ子
貴賓接待掛員　西野貞子　大塚つね子　藤本姉
新入會員募集掛員　清水種子　日比野さよ子
婦人新報購讀者募集委員　守屋東子　柳原竹子
音樂掛委員　モルガン孃　岡田孃
冊子掛　淺尾菊野子　阿竹みつ子
給仕　齋藤きく子　岡田あや子

接待員の内多少の變更あるべき旨大坂支部長より報告ありたり次に會頭の演説に移る（別項）
終て横倉姉の諸部の報告手短かにして懇談的に餘時を費され度しとの發議に
是は順序以外なればとて議長會員一同に向つて採決を求められ可決せらる
議長再び起て婦人新報は會の生命なり是に就ても諸姉の意見等を發表せられたしと述べらる
次に小崎氏樫内姉、金澤支部及前橋支部より大會に宛て電報また祝辭を送られしよし報告あり

大坂支部長林姉此度病氣の爲欠席せられたる小崎樫内兩姉に大會一同より見舞の電報を送らんとの提議あり清水姉の贊成あり滿場異議なく可決右は會場書記に一任する事となれり
林氏の發議に由て此度遠路を來會せられたる弘前支部代員、韓國に視察せられし渡邊常子姉歐米に漫遊せられたる上代姉に一場の感話を乞ふ事となれり仍てまづ弘前支部代員は同地の矯風會不振の狀況を述べ大坂支部の活動を見て之を家づとにし猶ほ諸姉の聲援を乞ふと述べられたり
次に渡邊氏は韓國に巡視して親しく同國人の不潔無教育、懶惰の狀況其他悖德の甚しき有樣を見て同地にも一日も早く矯風會の設立を見その喫煙飲酒の弊風を一掃し度しと述べられ
終に上代姉は起て當今岡山市各教會の日曜學校の日に月に盛になり行くは誠に喜ばしき現象なれど之らの兒童に對して日曜學校教員の不足を告げ居るは實に遺憾なる事どもなり滯米中女子教育と日曜學校教育とに就

て特に研究せし時同地の日曜學校教員の豊富なるを見て其理由を考究せしに同地にては六日間主婦として學校教員として忙殺せらるゝ程なる人々も日曜日一日は神の爲に特に捧ぐべき日なりとして自ら進んで家事其他の用務を繰合せて日曜學校の教授を執るなりき然らば我國に於ても夫れ〳〵の家庭の用務を今一層規律立たしめ聖書の研究を務め此一日を有益に神に捧げ得るこそ望ましき事なれと勸めらる

三氏の勸話了つて淸水姉徽章種類の説明を求めらる次に會頭「矯風の人と自らなる」との言葉に就て衣服改良を例とし説明を與へらる

讃美の後一同主の祈を了り五分間の正午の默禱をもつて會を閉つ

集會者百十餘名

二十一日午後一時半開會、司會者林歌子姉

モルガン嬢の奏樂に次で聖書馬太傳五章十三節以下の朗讀並に祈禱を以て本部役員及各支部代員の歡迎會を開く

順序に從ひ知事、市長、師團長、實業家、教育家、靑年會、教會各新聞社及大阪支部各團體を代表して鄭重なる祝辭及祝辭朗讀ありたり

知事高崎氏不參師團長不在の故をもつてこも田少佐代理せられ、土居通夫氏は本部會頭に宛てゝ懇ろなる書翰を寄せられ福井彥次郎氏同じく祝辭を送られ大塚氏の靑年會代表を兼ね長田時行氏教會を代表して一同を奬勵せらる(別項參照)

ガントレット夫人の獨唱に次で大阪每日新聞社長本山氏及朝日新聞社長に代つて同社員石橋爲之助氏祝辭を朗讀せられ又個人として會員を奬勵せらる(別項)

最後に大阪支部を代表して馬場松兼姉來會の諸員に歡迎の辭を述べらる

モルガン嬢の瀏喨たる音樂に次で矢島會頭の答辭ありたり

東部美以教會牧師柳原氏の閉會の祈禱に松井牧師の祝禱をもつて午後三時十分一同歡喜の中に閉會す

紀念の撮影を女學校前庭に於てなす

集會は二百餘名と算せられ難波津の片ほとり風薫敷白紐の清き結びは彌永遠にかたくぞ見えぬ

二十一日午後七時講堂に於て讃美歌二百七十五番名古屋支部長廣瀨銀子姉の祈禱をもつて開會直ちに事務に移る

代員證明書朗讀　横倉秀子

報告數種

〇本部通信書記　横倉秀子

清水姉の贊成あり可決

〇小崎氏病氣不參の故を以て渡邊常子姉の代理にて本部會計報告ありたり

林氏の動議に伊藤姉の贊成あり可決

〇會場會計報告未だ整はず明日に繰越す事となる

〇青年部報告ガントレット恒子

渡邊姉の動議に林姉の贊成あり可決

〇少年部長高橋姉不參横倉秀子代讀

林姉の動議に清水姉の贊成あり可決

〇婦人新報報告　横倉秀子

三種郵便の二種に變更せられしに加ふるに原料及工費騰貴の爲め收支償はず希は諸姉歸國熟議の上之が救護に力を竭され且つ奮て購讀者を募られん事をと附言せらる

林姉之に對して記者の心勞を思ひ且つ之が會の唯一の生命なる事を思はゞ諸姉宜敷同心協力之を扶助せられ度く然して能ふ可くんは再び三種郵便となすの策を講ぜられたしと述ぶ

横倉姉再び二種郵便となりたる當時の當局者の言葉は其運動せられし摸樣とを述べて説明を加へらる

ガントレット姉急速に之を議する事能はざれば委員を擧げて之を研究取調べられん事を動議せられ渡邊常子姉五名の委員を撰定して大會開會中に協議決定せられん事をとの修正を加へられ林姉の贊成ありて議長はガントレット、渡邊、林、清水、廣瀨の五姉を指名せらる

委員中に大阪支部より二名を擧げずして他の支部より一名を撰ばれん事をとて清水姉の辭退ありたれど

も結局同姉等の托す處となる
○最後に萬國婦人矯風會代表者ストラウト氏の報告あり
閉會に先ち林姉大阪支部を代表してストラウト孃に來朝の謝辭をのべらる一同讃美四百六十一番を唱し林姉の祈禱をもつて閉會す午後九時
七月廿二日午前九時より矢島會頭の司會にて讃美百八十九番を聖書以弗所書第四章一節より十六節までを朗讀せられ下の關代員阿邊姉の祈禱を以つて開會す書記前日記錄朗讀に對し二三の字句修正ありて可決
會計撿査委員を選定すべきところこは議長の指名にて會場會計に委托す

報　告

各課報告多數なれば各課報告を半數に分ちて採決するの可否を議長よりのべられ林姉可決の動議に馬場姉の賛成ありて可決す

衛生課　大關　和子（代理　鈴木　元子）
遺傳課　欠　席
日曜學校課　岡部　直子（代理　横倉　秀子）
文書課　欠　席
議事法研究課　欠　席
禁煙課　根本　德子（代理　守屋　東子）
傳道課　草間　道子（代理　鈴木　元子）
軍人課　淸水富貴子（代理　横倉　秀子）

以上各課報告について議長提議を求めらる淸水少年課について質問あり横倉答辯せらる
ガントレッドの可決動議に林の賛成あり可決
安息日課々長大内永眠の後此課長に適任者めらざりしかど一箇所より報告ありたればとて山本琴子課代讀す
動物優待課々長武田淑子はさきに辭表を提出し本部にては既にこれを採用せられたるものと信じ別に働きなしとの傳言を富之森より報導せらる

風俗課　岩本　玉子　代理　山本　琴子
母之會課　渡瀨かめ子　代理　ガントレッド恒子
救濟課　島田　信子　代理　横倉　秀子

此課中自愛館維持法についてマヽーレー夫人より大會代員諸姉に御助力あるやうくれ〴〵も傳へられとのぞまれしを横倉姉より傳へらる
矢島會頭もこれが理事長として一言つけ加へらる

交際課　矢島　民子　代理　鈴木　元子
花之會課　城戸　順子　代理　守屋　東子
法律課　矢島　揖子　代理　横倉　秀子

此報告に對し矢島課長其働きの有様を語らる

工女課　白井すめ子　代理　横倉　秀子
無酵請　渡邊しげ子
教育課　渡邊　常子
懸賞文學課　欠　席

以上の報告につきて會頭提議を求む
林姉教育課長渡邊姉に對して大坂支部の此課につきての考案を述べられ渡邊姉答へて神戸教育課働きの模樣と公立學校と矯風會との聯絡の有樣を述べ同課發展をのぞまる
林姉花の課の働きの模樣を述べ並びに毋の課について大坂支部の意向と考案とを述べて各支部相互の智識を交換せんことをすゝめらる
馬場姉風俗課について左の質問を發せらる
大坂濱寺間の電車は汽車と同じ規定なれば車内の禁煙については遞信省に交渉するの必要ある由なれば本部にて取扱はれまじきやと述べられ
横倉姉前年同省に交渉の有樣を述べてこれに答へらる
ストラツト氏に米國の教育課の模樣を語られんことを希ひ一同贊成ありて數言懇切に教へられき

○演說の大要

米國各州に於ては禁酒的教育をほどこし婦人のこれが爲め盡力する者多し教育者中には此主義に反對の者もあれどまた大贊成の者多くあり目下最も歡迎せらるゝは大いなる圖をもつて酒煙草の與へる害を衛生的に教ふる法なり生徒等に無邪氣なる口を通して兩親に飮酒喫煙の害をときて禁酒禁煙をすゝむる爲め斷然悔改せしもの少なからずまた米國に於て禁酒州を多く見るなり其理由は幼き頃より眞理をもつて教へられたる兒童

等は成長の後も深く腦中に殘り居れば此美擧を見るに至りしなり

されば大人にすゝめんよりは兒童に確固たる此思想を注入すること最も肝要なりと信ず

此課については最終點なく永へに向上すべき性質の働きを有するものなれば怠りなく務め給はんことを切望す」と

終つて議長再び各課の報告に對し提議を求めらる淸水姉の動議に林姉贊成可決せらる

岡田姉のオルガン獨奏終りしが猶正午迄には三十分の時間あれば各代表者一分宛の感話をせられいとの議長の發議に渡邊姉の動議淸水姉の贊成あり席順番號によりて十餘名の代員各地の模樣感話懺悔等有益にして且興味ある時を送りしと共に猶熱心に滿ちたる幾十の姉妹等の感話をきくを得ざりしをいたく殘り惜しく感じぬ

時すでに正午をつげければ五分時の默禱に詩篇の一句と主の祈りとをもつて閉會す

昨日の電報再び樫田姉より御好意を謝すとの返電ありたり廿二日午後一時半百六十二番の讃美杉田夫人の祈禱をもつて開會直ちにアッラウト孃の演說にうつる

同孃熱心なる演說により一同多大の益を得て將來の希望に一しほ動かされたるは疑もなく一同起立滿腔の謝意を示しぬ

〇演說の大要　ストラ、ウト女史

「何處如何なる人を問はず此世に生存する者には凡そ愛國心なきはなし自分は甞て其屬する國を持たざる人の話を讀み我等がお互ひに國をもち居ることを非常なる幸福と感謝しぬ

愛國心を表はす方法は種々ありこゝにかりに自分の國をほこり居る人ありとしても其人たるや忠實に國税を納めざる人なりせば如何で眞の愛國者と云はんや

眞の愛國者は勇者なりとは誰もいはんされど勇者を送り其戰塲にあるときはこれを慰め一日として其一身を思ひわづらはざる日なくたえず安きを祈るは婦人なり

甚だしきは戰塲の露に消え或は不具者となりて歸へり

來りし時男子の手をわずらはさずして一家を支へこれをよく整ふるは婦人なりされば眞の愛國者は男子にあらずして婦人なりと我は斷言す

男子は國の爲めに死し婦人は國の爲めに生るゝなり男子は死て詩歌に歌はるれど婦人は埋られてなほ不平を洩らさずに過ぐるなりこれを眞の愛國者といふも過言には非ざるべし

國家の爲死して愛國者となるは勇ましされどこれが爲め苦しみを忍びて生るは一しほ勇敢なることとなり

國民の品性の良否は婦人にあり子女の教育また母にありかゝる重大なる責任を男子より一任せられたる婦人は最も光榮あることとなり

子供は粘土の如くして母の教育如何によりて良きにもあしきにも導かるゝものなりされば婦人たるや其品性を重視してよき模範を示さゞるべからず

されど社會には實にあはれむべき婦人の多くあるを見る墮落せし男女を見て愉快なりと喜ぶものなしかゝる婦人を救ふは矯風會の働きにして米國に於てかゝる惰落の人々を救ひ善に導く目的をもつて矯會風は設けられたり

惡魔にほゆる獅子の如くなりて我等の周圍を取りかこめば我等は一時も忽になしおくことならず種々おそひくる困難もをそれず撓まず忍耐して益々會の發展を計らざるべからず

會の發達を計る方法として小册子をひろく配布すること度ゝ演説會懸賞文學會をひらき大人小供を導くこと少年部青年部を盛んにすること等最も効ありと信ず

然して目下到るところの矯風會員は他に比して品性の高きを見喜ばしけれど怠れば忽ち失敗をきたすなり

戰ふは兵士にあり如何に多くの上官指揮するとも兵士たるもの其責任を負ひて奮鬪せざれば勝利は得難しと命じこの矯風會も會員各自熱心に働かば必ずよき實を結ぶことゝ信ず

神は我等の後援者となりて守り給へば全力を盡して働くことにつとめざるべからず

次に特別委員報告

1、時事問題委員報告　　横倉秀子

い、來る四十五年度の大博覽會に於て我等は如何に働くべきか

ろ、官公私立小中學校内に矯風事業を皷吹するの門戸を開かれん爲めに盡力すること

は、來らんとする米國艦隊を如何に迎ふべきか

米國艦隊歡迎については昨日横倉姉より説明せられたることなればこゝに繰りかへさずまた四十五年度の大博覽會開催當時の行動につきてはいまこゝに決すること難ければ來る四十一年度大會迄の宿題となし充分研究せられ度しと述べらる

2、財政委員報告

小崎千代姉代理　渡邊常子姉

渡邊姉は之の報告によれば支出多額にて收入困難明瞭なれば各自熱心に助かられんこと、書記手當に對し各支部の支拂を本部に正しくすることと事務所建築のこと諸姉歸國後協議の上實現せられんことを希望すと述べられたり

横倉姉事務所建築について詳細圖をもつて示され各支部會員のこれが爲め應分の助力あらんことをのぞまるつゞいて本部宮永姉の會計報告あり同じく渡邊姉代讀せらる

渡邊姉本部書記手當のことについて質問せられ横倉姉これに答へらる

林姉本部會計について支部の希望を述べらる

議長は會計の報告について決を求められ二十六番の動議に六番の贊成可決す

横倉姉の代員證明書朗讀について本部役員の選擧に移る

會長　矢島楫子

副會長　本田貞子

いづれも最高點をもつて當選せらる

通信書記は書記全會を代表して一票の投票をなし從前通り横倉姉に留任を願はんとのガントレット夫人の提議に滿場一致可決す

記錄書記も同樣可決

（井深花子）

前會計の留任これまた異議なく可決す（小崎千代子）

かくして本部役員はいづれも重任に決定せられたり

會員一同本部役員諸姉に對し過去多大の勞を謝すと共に將來ますく\獻身本會の爲めに盡力せられんことを祈る

一同四百六十二番の讃美を歌ひ林姉の祈禱をもつて三時五十分閉會す

この炎暑嚴しき折柄にも拘らず遠國より參會せられたる代員諸姉の勇氣によりかく盛んなる集をもつことは天父のいたくこの會をいつくしみ給へる結果と信じ感謝の念に堪えざりき

七月二十一日午後八時より渡邊姉の司會にて懸賞文學會を開かる

岡田みつ子孃の妙なる調べ嚴かなる祈禱あつて後左の順序に從ひ執行せらる

1、夢　東部美以教會　吉本しづ子
2、青柳一郎の夢　聖勝主教會　山内鐵太郎
3、酒樽の中の着物　西教會　淺尾はるゑ
4、夢　ウヰルミナ女學校　青山新

讃美　二百七十二番

1、火事　南教會　加古操
2、老婆の述懷　北教會　宮保
3、老婆の述懷　浪華教會　杉田みつ子
4、大火事　天滿教會　芦田榮次郎
5、青柳一郎の夢　東教會　山本千代子

ピアノ獨奏　ミス　モルガン

審判官三名は左の件々より採點せらる

1、姿勢　2、音聲　3、態度
4、記憶　5、理解　6、動作

渡邊姉日本共勵會より本會へ寄贈せられたる徽章の說明を與へられ矢島會頭は青山新杉田美津子の優等者へ賞品を與へられ他は皆聖書壹卷を送らる

岡田姉の音樂について讃美二百七十三番を歌ひ長田牧師の祝禱をもつて午後九時三十分閉會す

無邪氣にして熱心なる辯說は實に愛らしくたゞ恍惚として前後も知らずなりぬこれら愛らしき口を通して喜

の音づれを傳へさせ給ふならば今一しほのお惠を與へ給へかしとねぎまつりぬ

二十三日午前九時矢島會頭司會の下に讃美三百〇四番聖書詩百二十一篇朗讀細合姉の祈禱を以て開會

前日の記錄朗讀に對し議長提議を求む異議なし可決せらる

次に靑年部長ガントレット夫人議長席につき血氣に滿てる會は夫人の祈禱を以て開かる

議長各支部の報告を求めらる

金澤靑年部

東京小石川靑年部

フレンド女學校靑年部

鳥居坂東洋英和女學校靑年部

神戸女學院ウイラード靑年部

終て議事に移る

一如何にして各會員の興味を喚起すべきか

參考として部長次の數言を附加せらる

文書課の働きの必要また此が靑年に最も適せる事

仍て此課の設置を急務とする事、翻譯をなして本部戰鬪者に彈藥として備ふる事

翻譯に就て山本琴子姉の質問あり部長の說明的答辯あり

文書課設置云々に守屋姉の動議山本姉の贊成あり結局各部に文書課を設けて靑年本部に應分の力を盡さんとの採決をなす

番外橫倉姉發言を求む

前年婦人新報に靑年部欄を設けて每號之に掲載せん事を約束せられしも實行を見る事難くして多くは記者自身の充たす處となるは甚だ遺憾なれば以來は投書ありたしと

議長の答辯あり以來は此約束を實行せん事を靑年部員に勸めらる

二工女に對する同情によつて彼等に精神的慰安を與へん爲下劣なる讀物に代へて簡易なる物を與ふるも必要なれど卑猥なる俗謠に更ふる歌を作り與ふる事

三基督教女子青年會に對する青年部の態度及之が侵害を受けざらん爲めの手段

守屋姉起て事を荒立てんよりは矯風會本部より靜かに同會の意思を托されん事を求めらる

山本姉委員を設けられん事を發議せらる

議長は說明して本部に依賴するもよけねど青年部自ら損傷を受くる事多大なれば青年部まづ不拔の力をもつて其衝に當らん事の必要を述べらる

之に依て守屋姉部長自らと他に一二の委員を選て調査を委任せん事を求む

議長の指名の許を得て部長自身にて守屋姉之に當る事となる

財政上の質問あり

守屋姉この爲に働の道を敎へられん事をと述ぶ

議長數言の答と說明とを與へて手工を奬勵せらる

議事を了つて岡山山陽高等女學校敎授上代姉に勸話を求む快諾せられ前途多望の青年部員に向つて同姉視察の經驗より最も適切なる奬勵と敎訓とを與へらる

青年會に對するストラウト孃の意見を述べられ調査委員としては有名なる四五の人々を撰定せられん事を望むと注意せらる

部長は之に感謝の意を述べて前述の委員撰定云々は青年部が結局は本部の有力なる方々の力を借りん迄の下調べなるを意味すとの辯明を與へらる

主の祈を以て青年部集會を閉づ

十時四十五分故大內淺子長田夫人赤星鈴子姉の追悼會を開く

故人の生前好み玉ひし讃美とて二百九十二番を一同唱し亡き人の俤を偲ぶ

部長傳道書を朗讀せられ淸水姉長田夫人追悼の辭を述べられ林氏祈禱の後矢島會頭大內姉及赤星姉生前の德を述べられ淸水姉之に大內姉追悼の一言を加へらる、宮の森姉の祈禱に赤井姉の長田夫人追悼の辭あり

打濕りたる會の中にも目前に彷彿たる故人を思ひ亡き人の子なる此會に向ひて愛の最後の一鞭を更らに與へられし如く覺えて一同靈氣に滿たされぬ

讃美三百四十八番の後長田時行氏の謝辭あり
主の祈を以て閉會十一時四十五分
二十三日午後一時半議長着席讃美二百七十二番甲府代員渡邊しげ子姉の祈禱を以て開會
最初に會計檢査員調査の上會計上誤りなきを報告せられ次て部長課長新任披露あり

青年部長	ガントレツト恒子	副部長	竹中繁
少年部長	高橋米子	副同	守屋東子
教育課	渡部常子	風俗課	戸板せき子
交際課	矢島民子	救濟課	島田信子
軍人課	清水富貴子	副	富永のぶ子
母の會課	粟屋榮子	禁煙課	根本とく子
衛生課	大關和子	遺傳課	井上友子
工女課	臼井すめ子	無酵課	渡邊しげ子
安息日課	山東泰子	日曜學校課	上代よし子
傳道課	小林とよ子	動物優待課	武田淑子
法律課	矢島揖	懸賞文學課	鎌原政子
文書課	江盛姉	花の課	水野姉

議事法研究課ストラツト嬢
終て前夜懸賞文學會に列席せられし一人ならん端書にて禁酒を實行する旨を誓ひ會に向つて感謝の意を表せられたりと横倉婦より報道せらる
ストラウト氏に代り渡邊常子姉實見的に飲酒の人體と精神に及ぼす害とを説明せられ有益なる演説あり
矢島會頭自家の經歷實驗より勸話を與へられ一層渡邊姉の教訓を強めらる
殘務に移る
明年度大會々塲
清水氏昨年來の約束により神戸にて開かれたしと
渡邊姉は種々の事情により今年は神戸にて開く事を得ざりしを遺憾としたれど來年は神戸女學院に開かれん事を希望すと述べられ一同喜びを以て之を受入る
渡邊姉時期に就きての質問あり
横倉姉常置員會に種々の都合あり例年毎月第二火曜日より開くを好都合とすと答へらる

諸學校の都合其他は常置員と交渉の上にて後に之を定むと

新入會員募集報告、此度の會により十一名と前に淸水谷高等女學校にて母の會開會の際新たに十二名合計二十三名を同志の中に加へられたりと淸水姉より報告ありいよ〳〵鞏固なる基礎を與へられしを神に謝す新報購讀者募集委員は廿六名の購讀者を得られしよし新報二種三種郵便物に關して此度委員協議の結果として猶ほ一層の力を以て三種認可とする事に盡さんとの協議の折柄淸水氏御良人を顧問として研究し會報欄を廣告欄として六號活字とせざる事に決す新報購讀を會員一同に勸誘せし成行は如何との淸水姉の質問に横倉姉は或る方面に困難あるやの趣を承知したれは問題は進行せさるよしを答へらる渡邊姉は特別の方法を以て新報の爲に寄附せん方購讀を强ひんよりも良かるべく而して諸姉猶ほ一層購讀者を募られ度しと添えらる

淸水姉は一箇人として若干部宛を本部より取寄せて賣りかつ之を要する人々に進呈せられし經驗より公會開催の折には前以て本部より取寄せられ之を販賣せられんには幾分かの助けとなるもやせんとて參考として述べらる

弘前支部代員も以來勵みて會員及購讀者を募らん事を約せらる

婦人新報掲載材料につきて横倉姉例を擧げて各支部より材料を豊かに送られん事を望まる

各支部代員紹介

濱寺會員石神田口兩姉大坂支部を代表しての挨拶あり富之森姉は各地代表者一同に代りて謝辭を述べ渡邊常子姉は本部を代表してウィルミナ女學校に對し其厚遇を謝し西野貞姉モルガン校長の代理として挨拶を述べらる

告別に臨み讃美歌三百九十二番を唱し主の祈を以て閉會四時十五分

同夜中三島公園内公會堂に於て公開演説會幷に賞旗授與式を執行す石橋爲之助氏の「健全なる社會」服部晴雄

氏の「社會の教育」何づれも聽衆を動かしぬ會衆無慮千、上代姉司會の勞をとらる

賞旗は最も多く會員を得られたる精勵日も足らざる如き大坂支部會員の頭を飾りぬ

同夜青年部員の唱歌を以て此會を授けられし勞多大なりき

翌廿四日は濱寺會員諸姉慰勞として代表者を招待せられ石神氏御住宅にて厚遇を受けぬ

玆に明治四十一年七月二十三日を以て第十六回日本婦人基督教矯風大會は優渥なる神の恩寵の下に無恙終りを告げぬ東西南北の志を同ふし事を共にする婦人團躰が三日間寢食を共にし一見舊知の交をなして會の現在を協り將來を議しぬ今や袂別に際し各々靈の導きを祈りつゝ抱負をもつて復この會合を契る「唯此一事を努む」る本部及各支部の成功あらん事を確く信ず

明治四十一年七月二十三日

會場書記　清水朝子
　　　　　竹中繁子

本部出席者幷に代員を出されし支部及び代員の姓名

本部役員

會頭矢島楫子、通信書記横倉秀子、記錄書記井深花子

(代竹中繁子)

部長課長

青年部長ガンドレット恒子、教育課長渡邊常子、無酢課長渡邊重子、法律課長矢島楫子、

其他常置員

萬國婦人矯風會代表、ストラウト孃

在日本外國婦人矯風會代員、ミス、ソール

横濱支部　北島房子、大橋重子

名古屋支部　廣瀨銀子

靜岡支部　久松けい子、

麹町支部　竹中繁子

京都支部　富森ゆか子

山梨支部　渡邊重子

弘前支部　助川あい子、乙部とく子

盛岡支部　畠山千代子
堺支部　角田いく子、赤井あや子
神戸支部　渡邊常子、三瀬ちよ子、岩本房枝子
岡山支部　上代よし子、山本姉
九州若松支部　馬場松枝子
下ノ關支部　阿部つる子
大坂支部　林歌子、淸水たね子、森山信子
荒井とみ子、杉田いそ子、緒方友香子、古木ため子、伊
成瀬非比子、大塚常子、岡本きみ子、細合はつ子、伊
東しな子、名出いく子、宮崎ゆう子、太田つる子、藤
本ます子、木村つね子

青年部

麻布青年部　山本こと子、大貫こう子
小石川青年部　守屋東子
フレンド學校青年部　鈴木元子
山梨青年部　青柳まさ子
神戸女學院青年部　鎌原政子、平川姉
金澤青年部　淵村姉

合計五十一名

諸部報告

四十年度本部通信書記報告

横倉秀子

支部總數　七十個所
內地にある婦人矯風會　五十
外國にある仝　三
青年部婦人矯風會　十七
四十年度內新設支部婦人の方は呉
仝　青年の方は仙台
開散せしは　婦人倉吉、彥根
理由は會長の轉地會員の轉地にて會員僅かに三四名
本部直轄となる
仝　青年は青山、橫濱共立女學校
四十年度大會に報告を送られし會廿五
婦人の方は二ヶ所なり

麹町、赤坂、横濱、相良、京都、大坂、神戸、金澤、高崎、前橋、原市、富岡、弘前、青森、熊本、旭川、山梨、筑前若松、鹿兒島、呉、名古屋、平

青年部六個所なり

小石川青年部、東洋英和女學校青年部、フレンド女學校青年部、神戸女學院ウヰラド青年部、山梨英和女學校青年部、金澤青年部

本部の設けある課の數二十二個所なり

教育、文書、衛生、遺傳、母之會、花、安息日、日曜學校、禁煙、無酵、風俗、交際、救濟工女、懸賞文學會、議決法研究、法律救濟傳道軍人、動物優待

全　部の種類數二

　青年、少年、

各支部にて尤も多く採用せられたる課、花の課、母の會課にて従つて好成績を示し居らる

次は　救濟、風俗、傳道、日曜學校課にて非常なる活動をなし居れり

各支部にて採用なき課

法律課、議決法研究課なり

各支部中尤も多數の會員を有するもの

　大坂支部　　三百二十人

尤も少なきもの

　金澤　　十五名

四十年度に於ける新入會員の多數之れまた大坂にして百二十三人なり

（右は但し報告書を送附されしもの丈なり）

四十年度に義務金を送りし會員數（これまた報告書）

千三百人内

　同　新入會員數二百六十人

婦人新報購讀部數五百九十部

少年新報　同　五百四十部

　　個人報告

通信書千三百余通

感話せし數十一回

新聞雑誌に投書せし數　七回

婦人新報を送り入會をすゝめし人數二十名

自問自答を惠與せし數三百八十部
其他リフレットを惠與せし數五百數餘
地方支部より招聘せられし數三回
クラフト夫人並にズトラウト嬢を横濱に迎ふ
通譯せし數十五回

本部一年間の重なる働

旭川事件運動に從事して陳情書を内務省に送り公開演說會を開催す風俗に係はる演說會を開きし事二回ウヰラート紀念會に公開演說會を開く禁酒同盟會と聯合してストラウト女史大歡迎會を開く
安息日課々長大内淺子姉永眠につき本部役員は會葬し花料を送る　（詳細は次號）

自明治四十年七月至仝四十一年六月　本部會計報告

収入の部

一金參百八拾貳圓四拾錢五厘也

内譯

一金百貳拾六圓〇七錢五厘也　前年度越金
一金貳百四拾壹圓九拾錢也　本年度收入義務金
一金拾圓貳拾貳錢也　書記手當寄附
一金貳圓五拾錢也　特別寄附
一金壹圓七拾壹錢也　書籍賣上代

（詳細一覽表は次號）

支出の部

一金貳百四拾圓八拾五錢五厘也

内譯

一金五拾壹圓拾壹錢也　米國本部義務金
一金七拾圓也　婦人新報補助
一金六拾九圓五拾錢也　本部書記手當補助
一金五圓也　花の課
一金貳圓貳拾六錢也　神戸教育課
一金拾圓也　貸金
一金七圓四拾五錢也　事務費
一金四圓五拾八錢也　郵税
一金拾圓〇六錢也　通信費
一金參圓五拾九錢五厘也　雜費

一金七圓參拾錢　ストラウト女史歡迎費

差引殘金百四拾壹圓五拾五錢也

右之通り

日本婦人矯風會々計

明治四十一年七月　小崎千代㊞

明治四拾年大會々場會計報告

收入の部

一金七拾八圓參拾壹錢五厘也

内譯

一金參拾貳圓○貳錢五厘也　越金

一金四拾六圓貳拾九錢也　本年收入高

支出の部

一金五拾圓參拾八錢也

内譯

一金五圓也　會頭奔走費

一金貳圓拾錢也　書狀印刷

一金七拾七錢也　狀袋

一金六圓九十五錢也　郵税

一金貳圓也　順序書印刷

一金五拾錢也　寫眞代

一金五拾錢也　リボン代

一金六圓也　辯士車代

一金拾九圓四拾九錢也　演說會場費用

一金參圓四拾錢也　委員車代

一金參圓六拾七錢也　雜費

差引殘金貳拾七圓九拾參錢五厘也

四十年大會々場會計

明治四拾壹年七月　小崎千代㊞

特別寄附

一金拾貳圓也　本部事務所建築の爲

上州前橋支部より寄附

四十一年七月　小崎千代㊞

財務報告

一、本部財務を補助するの目的を以て特に各支部にて

適當の方法を設けられ一年の終り又は臨時に特別寄附せられん事を勸告す

但し芝支部の如きは會員各自紙屑又は空瓶を賣て之を財畜し置其幾分を寄附されし事あり、又は本部補助の目的を以て演説會を開き其設けの幾分でも寄附せらるゝ如き小さき働を以て一方は本部を助け一方は各自が今一層本部を思ふの情の增んため從て社會一般の爲ともなるなり

一、書記手當の件

各支部より可成毎月送金を願ふ事

一、維持會員募集の件

一、事務所建築の件

四十年度自四十年七月至四十一年六月

基督教婦人矯風會本部書記手當決算報告

○收入之部

一金貳百參拾參圓八拾參錢

各支部其他團體より送金、細目は別紙に詳なり

一金貳拾五圓七拾四錢　前年度繰越

計貳百五拾九圓五拾七錢

○支出之部

一金貳百參拾八圓五拾錢　横倉書記え拂（細目ハ別紙ニ在リ）

一金貳圓貳拾六錢五厘　郵税爲替料等

一金參圓　宴會費拂戻

計貳百四拾參圓七拾六錢五厘

◎收支差引

一金拾五圓八拾壹錢　殘金

右之通

○各支部其他團體ヨリ送金細別

各支部其他團體	送金額並に回數	備考
大阪支部	七拾貳圓	每月六圓宛一ケ年分
盛岡支部	四圓四拾八錢	
	第一回　六拾四錢	七、八月分
	第二回　仝上	九、十月分

第三回　八拾錢　十一、十二月分
第四回　仝　上　一、二月分
第五回　仝　上　三、四月分
第六回　仝　上　五、六月分

靜岡支部　九圓
第一回　九拾錢
第二回　仝　上
第三回　仝　上
第四回　仝　上
第五回　壹圓八拾錢　一、二月分
第六回　六拾錢　三、四月分
第七回　壹圓貳拾錢　三、四月分
第八回　壹圓八拾錢　五、六月分

上州藤岡　五拾錢　四十一年度分

仙臺自助舘　四圓九拾錢
第一回　八拾錢　七月分
第二回　仝　上　八月分
第三回　仝　上　九月分

第四回　九拾錢　十月分
第五回　壹圓六拾錢　十一、十二月分

上州守中　壹圓五拾錢

山梨英和女學校　四圓參拾五錢
第一回　壹圓九拾五錢　一、二、三ヶ月分
第二回　貳圓四拾錢

小諸支部　九拾六錢　三月ヨリ六月マデ

金澤支部　貳圓八拾錢

旭川支部　五圓六拾錢
第一回　參　圓　三月ヨリ八月迄
第二回　貳圓六拾錢

弘前支部　貳圓
第一回　壹　圓
第二回　壹　圓

甲府支部　貳圓

京都支部　拾參圓六拾八錢
第一回　參圓六拾錢
第二回　拾圓八錢　壹ヶ年分

神戸支部　七圓貳拾貳錢　四、五、六月分

神戸女學校　七圓九拾貳錢

第一回　五圓拾六錢

第二回　貳圓七拾六錢

横濱支部　拾貳圓

第一回　六圓

第二回　六圓　壹ケ年分

横濱共立女學校　貳圓貳拾貳錢　七、八、九月分

横須賀支部　四圓貳拾錢

名古屋支部　拾四圓貳錢

第一回　四圓四拾貳錢

第二回　參圓八拾四錢　十、十一、十二月分

第三回　貳圓九拾四錢　一、二、三月分

第四回　貳圓八拾貳錢　四、五、六月分

東京芝支部　拾六圓七拾八錢

第一回　壹圓

第二回　參圓　七、八、九月分

第三回　貳拾五錢　紙屑代

第四回　八圓貳拾五錢

東京麹町支部　拾八圓

第一回　六圓　七、八、九、十月分

第二回　參圓　十一、十二月分

第三回　六圓　一、二、三、四月分

第四回　壹圓五拾錢　五月分

第五回　壹圓五拾錢　六月分

東京赤阪支部　六圓

第一回　壹圓五拾錢　七、八、九月分

第二回　壹圓　十、十一月分

第三回　參圓五拾錢　十二、一、二、三、四、五、六月分

フレンド女學校　九圓七拾錢

第一回　貳圓七拾錢

第二回　壹圓六拾錢

第三回　貳圓

第四回　壹圓八拾錢

第五回　壹圓六拾錢

東洋英和學校　拾貳圓

合計　貳百參拾參圓八拾參錢

○横倉書記へ支拂細別

年　月	金額並に回數	備考
四十年七月	貳拾五圓	書記手當不足額ハ本部ヨリ支給ス
仝　八月	貳拾圓	
仝　九月	貳拾四圓	
仝　十月	貳拾五圓	
仝　十一月	拾八圓	
仝　十二月	貳拾五圓	
四十一年一月	六圓	
仝　二月	六圓	
仝　三月	拾參圓五拾錢	
仝　四月	貳拾五圓	
仝　五月	貳拾五圓	
仝　六月	貳拾五圓	

合計貳百參拾八圓五拾錢

四十年度記錄書記報告

井深花子

四十年九月二十日午後三時より會頭室に於て常置員會を開く、出席者、矢島、本多、横倉、スペンサー、ハーグレーブ戸板、富永、粟屋、大内、清水、井上、クラゲットの諸姉なりき會頭の祈禱を以て開會、左の諸件を議決す

一新報の表紙變更、約束郵便となすの件

一函館支部の會員救濟の件

一十月上旬音樂演說會を開くの件其委員として音樂、富永、横倉、辯士委員　矢島、島田、横倉、

一ミススペンサーの送別、マコレー夫人歡迎の件

準備委員　矢島、ハーグレーブ本多、戸板、粟屋、大内、横倉、井深の諸姉を擧ぐ　散會は　六時

四十年十月十八日午後六時より青年會館に於て矯風音樂演說會を開く粟屋姉司會

橘友子孃の筑前琵琶（四條畷）

○田中正造翁の（世の矯風事業を妨ぐるもの）

デビー夫人のピアノ獨奏

矢吹氏の道德の不斷着
島田三郎氏の不健全なる思想
橘孃の川中島
會衆九百人餘拍手喝采の中に集會を閉ぢぬ

十一月一日午後四時麻布東洋英和女學校内にてスペンサー孃マコレー夫人の送迎會を開く小崎千代子姉司會本多姉本部を代表して送迎の辭を述べられハーグレープ氏西洋人支部を代表しての辭ありスペンサー氏の答辭マコレー夫人の挨拶同校有志者の合唱等ありて散會せしは五時半頃なりき

十一月廿八日午後三時常置員會を開く
出席者矢島、本多、小崎、ハーグレープ、根本、戸板、富永、井深の諸姉　左の件々を議す
一東京に青年部副部長を置くこと而して滿場横倉姉を適任者と認めて姉を撰ぶ
一東京聯合矯風會紀念會を兼ね演説會を開くこと
　會場は青年會館
辯士　島田三郎氏　山路愛山氏　餘興合唱並に貞水の講談
一本會の基礎を强固ならしめんが爲維持會員を募集すること
一本部事務所建築費を擴く各支部並に同情者に訴ること
一本會に適當なる職業を各自考案すること
一慈愛館の事業に各自多少の責任を以て擴張を計ること
　祈禱を以て閉會

十二月十三日午後六時より青年會館に於て紀念演説會を開く集會者は凡そ四百名

自制の力　島田三郎氏
獨吟　カナレー氏
婦人の勢力　山路愛山氏
講談　貞水
　三河屋甚平の成功談
九時半閉會

常置員の一人として本會の爲に其功少からざる大内淺子姉には十一月廿八日腸鉗の頓にて永眠せらる

埋葬の際には會頭始め數名の役員常置員は會葬し本會よりは花料を送りて弔意を表したりき

一月十五日午後三時常置員會を兼ね新年親睦會を開く可決せし件々左の如し

一二月十四日ウヰラード紀念演說會を神田靑年會館に開催すること

一右に關する準備は會頭と横倉書記に委托す

一旭川支部の陳情書に對し極力運動盡力すること

一維持會員募集勸誘委員撰定勸誘書草案を小崎氏に依賴すること

一交際課の働の一部として外國貴賓接待法を他の婦人團體と提携研究すること之が交涉委員を會頭、小端姉、ミセスボールス、ハーグレーブ横倉の諸姉に一任すること

右終りて親睦會に移り各自會の發展本部事務所設立等に關し懇談し會頭の厚意になれる晩餐を共にし散會せしは午後六時なりき

二月十五日午後六時半より靑年會に於て故ウヰラード女史第十回紀念大演說會を開く

一活動的生涯　　鵜飼　氏

一人道　　山室軍平氏

一禁酒と壽命　　安藤太郎氏

餘興　活動寫眞

來會者凡そ三百名

故ウヰラード孃紀念會にて募集せられしとて甲府支部より金參圓　盛岡支部より一圓慈愛館の爲に寄附せらる四月十三日午後三時より會頭室にて常置員會を開く

出席者

矢島會頭、小崎、根本、粟屋、富永、横倉、井深の諸姉なりき

會頭の祈禱を以て開會左の件々を決議す

一次の大會を大阪に開くこと

一會場期日は同支部に交涉すること

一萬國本部代表者歡迎に關する件

一五月下旬大演說會を開くこと

一維持會員たるものは毎月拾錢以上寄附すること

一　新報印刷代騰貴の爲並に二種郵便物となりたる爲大に困難なれば全國支部長に交渉し會員一名に對し必ず一部づゝ講讀せられんことに決す

右終りて會頭の厚意になれる夕餐を喫し散會せしは午後七時なりき

五月二日萬國本部代表者ストラウト氏來着横倉秀子本部を代表して横濱埠頭に同女史を迎ひ汽車を共にし新橋にて矢島本多正副會頭安藤太郎氏等十數名の人々と第二の歡迎をなす

五月十六日芝區普連土女學校にてストラウト氏の爲盛なる歡迎會を開く來會者凡そ百五十名

五月廿八日常置員はストラウト女史を賓亭へ招待し會食す來會者十一名本多副會長の挨拶ストラウト女史の答辭あり懇談一時間餘にして一同地久節の祝賀會に列す

七月八日常置員會を會頭室に於て開く論決せし件は大會の準備につき

二事務所建設は愈々九月より其運にとりかゝる件

萬國婦人矯風會代表者報告

フロラ、ストラ、クト

今より約三ヶ月前即ち五月二日横濱に到着し横濱支部會員諸姉、矢島會頭代理、横倉姉、横濱禁酒會々長などの御懇なる歡迎を受けついて東京新橋ステーションに於て東京支部役員、在留外國婦人矯風會諸姉、禁酒會々長安藤太郎氏等に迎へらる

正式の報告に移るまへに日本御婦人方より受けし衷情よりの御深切と御熱心なる御輔助に對しまた在留外國婦人の深き御同情と御厚遇、禁酒會役員諸兄此のあたゝかき御歡迎とつきぬ御恩惠に對してふかき感謝を表す者なり、實に此の美はしき國に來りてより以來たゞならぬ御親切と御交情にあづかりたゞ／＼感謝の外なし

殊に敬愛する矢島會頭の注意深き御忠告及び變らざる御熱心また經驗ある忠實なる在留外國婦人矯風會々長ミスハアクレプに負ふ所大なりとす。猶禁酒會々員鵜

飼氏が男子集會に於て巧妙に通譯の勞をとられし事に對しまた常に多大なる輔助となぐさめを與へられし我通譯者ならびに教師なる結城まさ子姉に對し今公に會員諸姉のまへに於て謝意を表はすものなり

來秋迄は別に定りたる働をなす豫定にはあらざりきたゞ御國の狀態を知り役員諸姉と御懇議を結び多少日本語を學び以て來るべき秋の大運動の準備をなす筈なりしも計らずもそれ以前に於て働くべき多くの門戸を開かれしをもつてしばし休息後たゞちに働にかゝりぬ

毎日午前は結城姉の忠實なる御教授の許に日本語の稽古をなしぬ

報告

原稿　六（日、米、新聞に）

事務に關する書翰　六十一

常置委員會出席　一

職務上の訪問　四十五

（數の回同樣の訪問を受く）

演說　三十四（歡迎會に於ての答辭を除く）

內

十三（大會への途中沼津、靜岡、名古屋、京都、神戶に於て）

三（橫濱に於て）

一（公私中學校に於て會衆三百五十名）

他は東京に於て

一（佛敎大學に於て會衆三百名小册子を配布し一名誓約書に記名す）

一（麻布中學校に於て會衆六百名）

一（麻布正福寺に於て會衆三百名等の爲）

一（青年會館に於て軍人の爲めに）

他は青年課集會、矯風會、集會、公會、演說會等に於てなり

至る處に於て歡迎せられまた重ねての招待をも受けぬ

誓約書に記名せし者の數は控へ置かざりしがいつも必ず記名する者ありき記名して誓約書を送り返せし者と送り返さゞる者とあれと總體に於てはよほどの記名者

ありしならん演説をし學校の教師より書面にてある部分の生徒は演説の結果全く禁酒禁煙されしよし申送りぬ又一人の佛僧は其結果として以後ある婦人傳道師によつて聖書研究をはじめしよしなり
多くの場合にリフレットを配布するとのと許されぬされど行く先々へ必ず風俗に關するリフレットを携へ學生等に分與しぬ
結城姉は美しき小年禁酒軍歌を十四ほど飜譯せられぬ猶少しく譯し加へて不日出版し少年部の用に供せんとす
今この報告を終るに際し此の會の過去に於ての成功を祝し猶未來に於て神は此會の上に力と惠を與へ給ふてます〳〵實力に於ても會員數に於ても生長發達し神のため國のため家庭のために多くなすあるのものとなさしめ給はん事を切に祈るなり
正義をして勝利を得しめんとせば婦人まづ其分を盡くさざるべからずしかして此の會は其の目的を達せしむるに大なる力あるものと信ずるなり

四十年度青年部報告

部長　ガントレット

一現在設立會數	十六
一新設の會	二
一散會せし會	二
一現在會員數	五百〇二
一新入會員	百七十五
一現在名譽會員	三十七
一退會社	十四
一會員外にして誓約せし者	三十九
一義務金總額	四十圓
一收入金總額	百四十圓五十一錢
一支出金總額	百十八圓八十三錢
一例會回數	六十六回
一臨時會回數	三十回
一婦人新報購讀者	十三名
一紀念日を守りし會	四

一卅九年度大會に代員を派遣せし會　六
一課の設ある會　六
一其種類　少年、花、風俗、安息日、母ノ會、救済
一議事法に隨ひて會を執行する會　六
一配布せし書類の數　三十

四十年度青年部々長報告

一通信外國より受けし信書　十一通
外國へ送しもの　八通
内地より受けしもの　五十通
内地より送りしもの　百〇八通
一遊説運動　二回
一講演　十六回
一配布せし書類の數　二萬〇九百六十三部
一新設せし會　二
一收入金額　一百〇二圓
一支出金額　六十五圓八十錢
內譯、旅費　四十一圓三十九錢
印刷費　十四圓七十錢
郵税　五圓二十三錢
雜費　四圓四十八錢

少年禁酒軍報告

部長　高橋米子

喜音學校少年禁酒軍

組織年月不詳‖組織人吉田とみ子‖現在正隊員六十九‖準隊員九十七、‖名譽隊員四、‖本年度に於ける新入正隊員三十五、‖準隊員五十三、‖例會の場所喜音學校內‖例會每月一回其出席平均數八十一、‖少年禁酒軍本部にて規定したる例會執行順序によれり、‖採用したる敎科書三、‖少年新報配布數三百六十

弘前少年禁酒軍

明治三十六年二月組織‖組織人ミス、グリフエス、‖現在隊員七十四、‖本年度に於ける新入隊員十三、‖例會の場所元寺町美以敎會、‖例會數十回、‖其出席平均數六十四、‖每年二月十一日親睦會を開く、‖敎科書は幼年生理其他數種、‖少年新報配布せし數一ケ

月百枚、‖收入金六十九錢五厘、

青山女學院少年禁酒軍

明治三十七年四月組織、‖組織人山口みよ子、‖現在隊員六十六、‖本年度に於ける新入隊員二十九、‖例會の場所青山女學院、‖例會數每月一回、‖其出席平均數五十、‖少年禁酒軍教科書を採用せり、‖少年新報配布せし數每回七十枚なり

一關磐井少年禁酒軍

明治三十八年四月組織‖組織人高橋よね子‖現在正隊員六十五、‖準隊員二十五、‖名與隊員五、‖本年度に於ける新入隊員三十八、‖例會の場所磐井クリスチヤン教會內、‖例會每月一回其出席平均數八十、‖本部規定の執行順序によれり、‖少年禁酒軍教科書を採用せり、‖少年新報配布數三百六十枚

旭川少年禁酒軍

每月一回禁酒軍の集會をなす、‖募集せし金額一圓貳參拾錢、‖支出金一圓五十錢

東京市麻布鳥居坂町八、東洋英和女學校內、青年婦人矯會風少年課長水野きた子により最近に少年禁酒軍を三ヶ所に組織せられたりと

芝少年禁酒軍は昨年の大會以後適任者に乏しく繼續の見込なき爲め殘念ながら少年課を廢せられたりとの事

鎌倉少年禁酒軍當會少年課の事業は昨年中より休みたり依て本年は報告なしとの報を受けたり

右之外課長より各支部に報告用紙を配送せしもまだ何等の返報なし

本年度內に發せし書狀の數二十八、本課に就ての感話の數十二回

工女課報告

課長　白井壽女子

身不肖にして過る一年間報告しまつるべき多くの材料なきを恥づ而してまた工女課の發展の爲めに一も盡せしことなきを謝す幸にして甲府市の新報告に接し本報告を飾るを得たるを喜びとす

總して一般に工女界に福音の種の次第に蒔かれつゝあ

るは深く感謝に堪へざる所なり

神よ全國の工女を憐み給へ余等の事業をして聖旨に従ひて更に大きくをなさしめ給へ、各地の此種の働の上に祐助を與へ給へ、其爲に働く男女を祝福し給へ、これわが祈りなり

○山梨支部（甲府市愛宕英和女學校）

仝支部は未だ工女課の設けなれど絶へず有益なる働をなされつゝあり、アルコーン、渡邊しげ子二女史の報告梗概左の如し

一、山梨縣下の工場及工女數　百十一ヶ所約一萬一千名

一、工場の事業　主として製絲

一、仝支部一ヶ年の活動概況

（イ）集會　毎月一回或は二回三十分乃至十五分開會し福音を傳ふ集會を開きし工女數十一ヶ所

（ロ）施本　基督教雑書類を配與す其工場數九ヶ所

一、之が爲に働く會員數名

附記仝地方は一般に閉鎖主義の工場にして働の上に少からず不便を感ず

○東京芝支部（芝區三田四國町二戸板方）

仝支部工女課々長は余之を兼ね昨年度中一家に種々の災變なりし爲め充分に働く能はざるを遺憾とす

一、余は上述の如くにして又た東京愛隣社の事業に直接深き關係あるが故に本課に屬する事業は殆ど仝社に屬してなさしめたり別項仝社事業梗概御參照を乞ふ

一、本年度は一層の奮勵を以て當らんとして種々の計畫をたてつゝあり月刊「工女の友」發行の計畫の如きその一なりこの爲に御助力を給はらんことを希ふ

○東京愛隣社（東京三田四國町二番地）

仝社四十年度の報告概要左の如し（主任白井俊一）

一、夜學部　昨年度生徒在籍平均三十四名　年末現在四十二名　昨年度中收容せし生徒數四十七名

仝年度卒業生三名　其職業　工女三十名（内二十五名煙草製造）雇女十名（内六名下婢）雜業

七名
其年齡最高廿八歲　最少十歳

一、傳道部　日曜學校、生徒平均（每月）三十一名
外に女子共勵會祈禱會（每週木曜日）等あり

一、救濟部　工女、下婢其他の救濟救助保護　十五名

一、集會部　勞働者父母會外三會あり　約隔月一回開會

一、紹介部　職業、修學、施療其他　十三名
外に出版部、實業部等あり

一、職員及教師講師　年度末現在七名

一、昨年度中の主なる事項
四月夜學部卒業式、五月類燒、六月假始業、七月故社母紀念會、九月移轉、十一月創立滿五年紀念會、四十一年一月訪問部開始、二月二祭典執行受洗者二名

〇松山同情館（伊豫松山市傘屋町）

全館は直接矯風會に關係なけれど課長夫妻は常に通信して交際し居れり近況左の如し（館長大本新太郎氏）

一、財產の總價格　四千四百十六圓九十一錢一厘

一、事業（イ）女子夜學校　在籍二十六名內寄宿生二十名
（ロ）教師及職員四名

一、日曜學校　每月每日曜日開校

一、工場　館內に機織場あり伊豫飛白を織る

一、工女職業　紡績二十名、機織二名　其他四名

〇附　記

金澤市にも工女の爲に有益なる事業をなされつゝありされど未だ詳報に接せず

衞生課報告　部長　大關永子

〇藤岡支部

大戸貴志子課長として公開演說會を課の目的を以て三回開き醫士看護を勸誘して本課事業に盡力せん事を求めし事二回なり

課長個人の報告

本部課長は個人としては身自ら看護に從事して本課間

接の働をなし候へば實地看護法を著はして公益に供へたり

四十年度傳道課報告

課長　草間道子

報告書を送られたる支部

（大坂、橫濱、若松、藤岡の四個所なり）

大坂支部

森山のぶ子課長のもとに一ヶ年二回大集會を開き大坂牧師の說教を乞へり其他凡ての課に於て傳道の目的を以て働き居れば玆に詳細は報せざるなり

橫濱支部

課長毛利カオル子例會順序を採用せり本課には醜業婦人名を救濟せり每月數回會員外の人々を訪問せり收支各々二圓二十七錢なり

若松支部

課長申田やす子一ヶ年二回の例會を開く公開演說會二回會員外の人を訪問せし事二百回課の働の結果として四名の會員を得たり

藤岡支部

詳細の報告なし

交際課報告

課長　矢島民子

橫濱支部

雪野勇子を課長として此の課の働に盡粹す常に訪問いそがしく誠にストラット孃歡迎に對し大に盡したり

大坂支部

課長は淺井恭子にしてウヰラード孃紀念會を開きまた花の紀念日を開いて本課の爲めにする事タフト卿夫妻に花束を送りまたハシロ博士を歡迎して花束を送る本部常置員會にてはとくに外國貴賓接待の方法を研究せん爲め委員を選定す且つ來朝せんとする米國艦隊歡迎の方法につき米國領事大使外務省と交涉する處ありたり

風俗課報告書

課長　岩本玉子

○大坂支部　課長　馬場松枝子

全課は今だ充分ならずも追々見込あり本部課長より本課書類受領致候

本課に於て公開演説會を二回致中々盛會に御座候

本課より貸與すべき書は凡そ三百余有之又リーフレットの數も六百余もあり其他のことは種々考案中に御座候追々實行致可きと存候

本課以外に只今計りつゝあるは

大坂濱寺間にある電鐵内に禁煙を實行せらるゝ樣出願中に御座候

課は盛行ならんことを祈申候

前橋支部　課長　金子おなじ子

本部課長より書類受領致申候

例會順序課長の考案を實行しつゝ有之候且本課に就き二回の演説會を致申候

リーフレット小冊子の數は凡そ五六十枚に御座候又公衆へ夫々與へ申候本課の會室に於て開きしは二回に候又本課の同事業に賛助せられ御盡力下さるべき牧師は二名に有之候

過日當地に於て開かれし愛國婦人大會の際餘興有之候に就不徳なる事なきより全課より警察へ注意を與へ申候其他は實行せんとしつゝ有之候

○麹町支部　課長　粟屋米子

全課は今だ日淺く何等の考案もなく如何可致や全課に就今だ何一つも實行無之候報告とても可致ようなく併先日は渡來に相成候ミスストラウトよりは注意下され候課に就今後出來得る限り實行致度心得候へ共何分經驗なき事故十分なる考案致課のために盡さんと致居候

報告に替へ一書を以て申上候

藤岡支部

課長に高橋はる子にして少年學生等に風俗上の注意を與へリフレドを惠與す

四十年度母の會課報告

課長　渡邊うめ子

京都支部

課長ラルチテ氏例會順序を採用し課長の考案を實行して課の發達を計る一ヶ年間の集同五度毎會列席者數四十名余本會事業の方針は母なる人々が凡て家庭を重し子女を善良に教導なさしめんを計るゝなり事業の困難と認むる事は集會者の招待に比して少數なる事なり

橫濱支部

課長二宮わか子毎月一回例會を開出席者數六十六本會にて研究せし問題は貴員と教的家庭、子の德、家庭と學校との關係、理想の家庭、下婢の監督使用法、夏期衛生法等なり支出金二十圓余

弘前支部

課長カシデー夫人のもとに例會順序を採用す一ヶ月六回の集會、出席者數五十名本會にて研究せし主意は兒童教育なり方針は兒童教育上より家庭矯風の必要を感ぜしめ漸次會員となすにあり困難とする處は列席者の數の小なるなり本會にて貸與せし書は家庭教育母の務子供のお伽話等なり本會の働にて矯風會員となりしもの十二名なり

大坂支部

杉田いそ子を課長となし一ヶ年二回の集會を開く出席者七十名余研究せし問題は兒童教育衛生宗教につきてなり事業の方針は家庭の改良にあり外に下婢使用法研究會を開き數名の實見談あり益せられし事多大なり

四十年度救濟課報告

課長　島田信子

東京、大坂、旭川の三個所に設けあり

慈愛館

館主マコーレー夫人、理事長矢島揖子、理事五名委員七名あり財團法人なり目下本館に收容人數七名、舍監一名留守居一名、一ヶ月食費五十圓舍監等の手當二十八圓なり

三十九年より四十一年迄の收入

金七十三圓　婦人矯風會より
金一千三百五十圓七十二錢　西洋婦人矯風會

金二百三圓五十八錢　修繕費として
金二百七十五圓 四十年十一月より同一年六月迄 館員編物代
合計一千五百九十三圓
支出若干の不足あり

大坂支部

婦人ホーム舘長林依子會の所在地の妓樓の數千七百七十七軒音樂會を開きホームの財政を助け一年間當地にて入獄せし婦人の數九百七十慈愛館へ三圓寄附す收入金七百二圓八十三錢五厘支出同額なり

旭川支部

ピヤソン姉課長にて貧民救濟並に醜業婦を救助し傍ら旭川遊廓增設問題に大に盡粹せり

明治四十年度

軍人課報告

本部課長　清水富喜子

昨年度中は小妹事兎角旅行勝にて本課の爲十分の活動をも爲す能はず從て各支部軍人課の御動靜も詳に拜承致すの期を失ひ候事は最も遺憾とする處に御座候且又今回は誠に少數なる報告を受了致候事は小妹の怠と深く謝する處に御座候

左に各支部軍人課報告を

大坂婦人矯風會軍人課報告

課長　名出イク子

一病兵に花束を送りしと　數度
一癈兵に送りし聖書　二十三冊
一癈兵訪問　二十三回
一二名の癈兵に金子を與へたり
一癈兵の困難なる者に補助を與へ且又商業を營ましめたり
一壹ヶ年間の支出金壹百廿壹圓四拾錢也
一尙本年九月には軍人課の爲め集會を開くべき豫定なり

右報告

○旭川婦人矯風會軍人課報告

課長　村岸タキ子

一病院訪問　十二回
一軍人に配布せし禁酒リーフレット　五六十枚
一各所に於て軍人と面談し又共に樂み話すこと常なり
一病兵に送りし花束　約七十
一慰問袋贈與　二百袋
一軍人に送り福し音書　約二三十冊
一軍人を訪問せしこと　二十三四回
一軍人家族に金圓を與ふ
一軍人に送りし書狀　十二三通
一新紙及雜誌類は　無數
一「スクラップブック」を二十七聯隊の一大隊二大隊の兵員に送れり
一誓約せし軍人十五人許りあり
外に授洗せられしもの七八名ありたり
一禁酒會に入會せし軍人　二名
一毎日曜日午後二時より禁酒及基督教説教會を開けり
一軍人休憩所は書籍縱覽所を設く
一軍人の爲め他の赤十字又は愛國婦人會の團躰と協同せり

○弘前婦人矯風會軍人課報告

課長　アイレン、マーン氏

一衛戍病院を訪問せしこと　三回
一花鉢を送りしこと　一回
一禁酒リーフレット其他キリスト教諸雜書類　二百五十部
一愛國婦人會員を誘道し矯風會へ入會を勸めしこと度々ありたり

尙昨年秋課長歸米致し候後後任者無之候爲め課の働も思ふ樣に參らず候らひしも何れ其內適當の後任者を相定め及ぶ限り盡し度き考に御座候尙當地の爲め御祈り被下度候

○京都婦人矯風會軍人課報告

課長　和田きぬ子

京都にては當年は何も報告すべき程の働き無之汗顏の至りに御座候實は軍人課は課長たるべき主任者なく又會長は當春以來病氣にて何事もハカドリ不申困り居候

何卒御祈の内に加へられたく候何卒本年大會の上に大なる神の御惠みあらんことを祈り居候

右の外

一神戸婦人矯風會軍人課
一橫濱婦人矯風會軍人課
一靜岡婦人矯風會軍人課
一相州婦人矯風會軍人課

等よりは格別の働きを爲さゞりし旨通報ありたり

一軍人課の設けある支部は　十七ヶ所

本部課長個人の働

一一ヶ年書狀及端書發信數　凡五十五六通
內支部へ四十、軍人へ十五六通
一委員會出席　二　回
一病院訪問　二　回
一禁酒リーフレット配布　凡一千枚
一勸誘書を送りしこと　三　回

右の如く今回の報告は實に至極少數にして誠に本部課長の怠の然らしむる處と汗顏の至りに候然し報告を送られし支部各課長の働きの摸樣等は實に諸姉に感謝の至りに御座候殊に大坂の來九月軍人の爲めに開催せらる、集會の如きは神の御祝福の優かならんことを、旭川支部軍人課の御働きぶり謝するに餘りある處に御座候併に諸姉の御精勵をも謝する處に御座候尙一言申上度きは軍人課の働きは決して戰爭中にのみに限らず寧ろ平和の時に於て必要なるものにして今より種々なる事項軍人諸士の爲めに研究して一朝有事の時に備へ度くと存候間賢明なる諸姉よ何卒一層着眼の區域を廣ふして大に奮勵あらんことを乞ふ決して戰後不必要の働きには非らず實に緊急の問題なれば今日大會へ御出席の諸姉御歸の上は多くの姉妹方へ御披露被下尙一層本課の爲め御盡力を願上候實に國家の干城なる軍人諸士の爲めに働きは誠に幸福なることには候らはずや何卒神の祝福諸姉妹の上にあらんことを

明治四十一年七月

軍人課報告

一本年一月以來、神田青年會館軍隊部に於て每日曜に

催せる軍人歡迎會に出席し、同館職員の夫人方と協力し湯茶晝食等成る可く市中實品より安價なるものを調製準備するを目的とし接待に從事し、又禁酒禁煙に關係ある印刷物、並に宗教道德に因ある雜誌を配布せり、以上は今日に至るまで連續致し候

二牛込區内に在る軍人の遺族にして今日の生計に困難なる者あり愛國婦人會に照會し同會の設備せる授產場に出勤せしめ相當の職業に就かしめ候

基督敎婦人矯風會軍人課

副課長　富永　延

安息日學校課報告

課長　岡部直子

報告のありしものは富岡、若松、藤岡の三箇所なり

富岡支部

課長岡部直子生徒數二百五十名、禁酒演說會を開きし事三回收入金十圓、支出金十圓七十錢なり

藤岡支部

課長菱本まつ子生徒數百人、禁酒誓約をなせしもの十五名、禁酒演說會を開きし事二回なり

筑前若松

課長原かめ子生徒數二百六名、禁酒種類の數十二なり

明治四十年度禁煙課報告

課長　根本とく子

芝支部禁酒禁煙課

課長　南波常子

本課は明治三十八年十二月七日設立せられ先づ本部課長より送られたる考案に成れる例會順序書に依りて働き方法を實行しつゝあり本課長より寄贈の裁酒禁煙に關する雜誌及リーフレット其印刷物を各工場及學校へ配布せり

個人として本員の働は禁酒禁煙のすゝめ五百枚煙草は毒二百枚課員に分配して各家出入の飲酒家及喫煙者に分與することを依賴し其爲めに出來得る限り盡力なしつゝあり

當課員は毎月金五錢づゝを課費として出金印刷物を買入好機會を見て分配することゝせり

寄贈されたる「リーフレット」代金八圓五十錢集會を開きたること五回

明治四十年七月より四十一年六月迄

本部禁煙課長　根本德子

婦人會又は母の會に於て本課事業の必要なる事を話せし事數回

本員の勸誘によりて禁煙せし者女七人、男十五人

雜誌に投書せしこと三回

禁酒會等に於て演説の節酒害煙毒二千五百部を配布し其他個人的に於て電車又は汽車內て分與せしリーフレット五百部

國の光五十部禁酒禁煙のすゝめ煙草の毒各三百部、婦人新報十五部、護教十二部、禁酒は吾人成功の秘訣二百部、禁酒問答三百部ときの聲一年分配布す

喫煙する青年に代へて禁煙する青年を雇ひ入るやう勸告せし商會五箇所

本課の爲め出狀せし數二十三回

支出金額三十圓五十錢

四十年度教育課報告

渡邊常子

敎育課の設けある場所は神戶、名古屋、橫濱、前橋の四ヶ所にして橫濱、前橋は本年度に於て設立せられ此課の働きは未だ開始せられず

名古屋にては書類を配布せず本部課長が各支部に對し敎育課を設くるの必用なる意見を陳述せしつの當新聞五十部を各支部に配布せらる

神戶にては各課長と協同し市內中宮小學校の一部を借受け雨夜慈善市を開きて市の主なる人々を招待し純益金九拾圓〇拾錢外に無形的多大の効果を得たれば同校に對し聊謝意を表するため價額廿有五圓の器械體操設備一式を寄附す

個人としての働

昨年十一月下旬日本婦人傳道會の用務を帶び渡韓する事となりたれば出立前敎育課を設くるの必用なる意見を認め名古屋敎育課長大島織江姉に各支部への傳達方且は此課の働き一切の事を托し滯韓日數滿五ヶ月同地の風儀よろしからざるを目擊し實に矯風事業の必要なるを感ぜしも身是れがため充分力を盡くす能はざりしは遺憾とする處なりされど同地滯在中喫烟の害毒につきて一書を草し二三の知人に與へしに其中一名の某會社員忽ち感ぜらるゝ處ありて禁煙せらるゝに至りしは當時余の喜びとせし處なりとす

明年度に於ては本課の一層進歩發達を視るに至らんことを祈る聞く來る十一月には米國禁酒會敎育課々長ミセス、キヤソリンスチイヒンソン來援ありと願くは此機を用ひて充分の働きをなさんことを希望す

配布せし書類	百部
寄書	二
集會出席數	十二三回
發信數	二十有餘
受信數	仝上

花の課報告

課長 城戸順子

支部名稱	部課長姓名	配布せし花束の數	同鉢植の數	同聖句セードの數	同病院孤兒院養育しますの	禁酒誓約をなせし人員數	花を受けて靈性上の慰藉を得たる人	寄贈せし食品の數と種類	貧民に贈與せし衣服の數	其他の贈物	花の紀念日を守りしや	本課用として庭園に草花を培養すると數	配布せし小册子の數	同禁酒小册子の數	訪問せし病人貧民其他の數
神戸基督婦人矯風會	小磯みと子	數十個	2					菓子箱五個							18
前橋市前橋教會內婦風會	平賀くに子	6	5	7	2			3		3	守りたり		5	2	35
山梨縣婦人矯風會	伊東千代子	35		不明	3		不明	30 ジャム洋食物菓物	數十枚		守りたり	5			65
大阪婦人矯風會	緒方千重子			350	5		300	300 菓子			守りたり		650		6
山梨英和女學校青年婦人矯風會	田中やそじ	46		46	2					金子	守りたり	7	32	100	45
北海道旭川婦人矯風會	田中てる子	30			1										
東京麻布東洋英和女學校青年婦人風會矯	奥田みさ子	650	1	200	病 2 12		620				守りたり	10		630	620
小石川青年婦人矯風會	南波操子	12	5	5	2			豆六升	30	石鹸歯磨ヨージ金子			200		11
横濱基督教婦人矯風會	加藤とみ子	5	10	15	16		5	菓子			守りたり				15
京都支部	松山常子	600	10	50	120			カスタースープ二十四			守る	50			
若松支部	申田とし子	13		200	30	1	5		20			1			

赤坂支部	山東恭子			400	19										
高崎支部	萩原きせ子	20			4			吾妻雪			守る				
フレンド女學校青年部	鈴木すゞ子	6	6	60	5						守る				

根本正君譯
日々の力 定價 布表紙五拾錢 紙表紙卅五錢 郵税 六錢

根本正君譯
貧兒出世美談 定價 廿五錢 郵税 四錢

根本正君譯
世界最大物 定價 五錢 郵税 二錢

根本正君譯
歐米青年立身傳 定價 五拾錢 郵税 八錢

根本正君譯
歐米女子立身傳 定價 四拾錢 郵税 八錢

島田三郎君演説
酒禍の實驗 定價 五錢 郵税 二錢

渡邊房吉譯
青春の危機 定價 卅五錢 郵税 六錢

ダブルユー、ゼー、キヤラハレ譯
日曜學校教師 定價 卅五錢 郵税 六錢

アグチス、コーツ、櫻井成明君合譯
日曜學校教授法 定價 參拾錢 郵税 四錢

田中達君譯
人の運命 定價 貳拾錢 郵税 四錢

本多庸一先生
説教集 定價 六十錢 郵税 六錢

山田寅之助先生
説教集 定價 五十錢 郵税 六錢

○日曜學校之原理及理想

市俄古大學教授バートン、マスユース共著
大宮季貞、海老澤亮兩君共譯

紙表紙 金三十五錢 郵税四錢
クロース 金五十錢 郵税六錢

近世の心理學と教育學とに基きたる高尚にして、しかも實際的の良書なり

東京市京橋區銀座四丁目一番地
内外書肆 **教文館**
電話新橋二五二六番
振替貯金一一三五七

目録御入用の御方は郵劵四錢を添御申込あれ

法律課報告

課長　矢島揖子

旭川事件に關し各支部に記名捺印を求め陳情書を內務省に提出す刑法改正案並在外賣婬婦取締二種の請願書は今議會に提出せずして來議會を待つ事とせり

收支金五圓也

四十年度婦人新報告報

横倉秀子

內

發行部數　一千四百部　購讀數　一千百三十一部

交換數　百二十部　進呈　百　部

會計報告

總收入金七百五十一圓

內分

金五十圓　廣告料　同七十圓　本部保護

同十圓　會頭寄附　同六百三十八圓三十七錢五厘　賣上高

支出

金七百七十六圓十三錢

內分

金四百三十五圓八十八錢印刷代　同百二十圓　編輯手當

同百八十六圓五十九錢　內外小包並に約束郵便料

金六圓三十五錢　通信料　同二十圓　約束郵便擔保

同五圓　新聞代　同五圓　原稿代

同五圓　原稿紙代　同五圓　集金人手當

同十圓七十錢五厘　代張筆紙其他雜費

差引金二十四圓七十五錢五厘　不足

牧野虎次君著

舊新約全書總論

五百五十頁余
上製一圓五十錢
並製一圓二十五錢
小包料十二錢

舊新約全書を通して六十六巻、その年代は上下一千余年に亙り、その出處は亞細亞、亞非利加、歐羅巴の三大陸に及び、その記者は幾十百人を以て算すべし、而も收めて一冊とすれば、一巻の聖書は前後相享け、脉絡相通じ、敢て寸毫も亂るゝ處なし、これ實に一大奇跡に非ずや、この一大奇跡に接して、其深遠なる意義を開くは、區々たる字句的註釋の企て及ぶ所に非ず、其年代を究め、其出處を匡し、其記者を尋ぬる、聖書總論の要、こゝに於てかあり著者玆に鑑みる所ありて斯著あり其内容如何は敢て讀者の鑑識を請はん

松村介石先生新著

不朽の道

定價五十五錢
郵税六錢

今や日本は**無宗教**國となり日本國民は無牧の民となりぬ其**結果動**到處**物慾**に猜名を與へ我利心に主義を附し**惡魔の福音**に歡迎せらる松村先生發憤措からず即ち**萬古不朽**の道を提げて此民を警醒せんとす於此乎御書出づ

座古愛子著

前篇

伏屋の曙

定價四十錢
郵税六錢

●萬朝報曰く　著者生れて薄命父を知らず母を亡ひ、貧に逐はれて萍移蓬轉、幾度か虎口を逃れて僅かに其節操を保ちしも、病膏肓に入りて起つこと能はず、妙齡の身を病蓐に呻吟すること數年、漸く基督教徒の慰安を受けて神を知り、靈光頓に光明を加ふるに至り、指のみの動くを幸に病中に認めたる其半生の哀史は即ち是れ、題は「影暗くいぶせき賤が伏屋にも恵の光照す曙」てふ自作の歌に取る、其文未だ世を驚すの値なしと雖も、亦流麗にしてイヤミなく、彫琢を加へざる處却て其眞を見るに足る、卌篇の韻文、四百四十二首の和歌、三十四句の俳句、多くは斯の病才媛が神を讃美せる蓐中の聲にして、誦すべきもの少なからず、病紅葉、病子規、病兆民、病事齋、病梁川等に加ふるに今又斯の病才媛を以てす、天何ぞ才人に禍することの爾かく多き。

同

續編

伏屋の曙

定價五十錢
郵税六錢

○本日より發賣

發兌

東京市京橋區
尾張町二丁目

警醒社書店
（振替貯金口座五五三）



東京市京橋區西紺屋町二十六七番地　株式會社秀英舍印行